



小林市立小林小学校

校長通信

令和5年4月24日

第37号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.j 本校

返事・あいさつ・整理整頓

四月七日に始業式、十二日

には入学式を行い、令和5年度の教育活動がスタートしました。新しい先生と新しい教室で、子供たちも期待と不安でいっぱいでしょう。その心持ちは、保護者のみなさんも同じだと思います。

教師も一人一人個性があります。昭和の時代、私が習った先生を思い起こせば、今よりもっと個性の強い人ばかりだった気がします。

十九日には担任との出会いもありましたが、いかがだったでしょう。担任らも、ずっと前からドキドキしていたようです。

さて、期待と不安の「不安」が大きくなりそうな時、お子さんにはぜひ、「いい学級だね。がんばろうね。」と声をかけていただけたいでしょうか。その一言で不安が期待にかわり、大きな希望につながると考えます。

「返事・あいさつ・整理整頓」

とは、始業の日、子供たちに示した「今年度頑張ってほしいこと」の3つです。

「返事」は、人の話を聞く「構え」ができている証拠です。人の話に耳を傾け、タイミングよく返事ができることは、それだけでも素晴らしいコミュニケーション力です。

もうひとつ、「返事」は素直さの現れです。人の言いなりになるということではありません。まずは「はい。」と相手の意見を受け止めることは礼儀であり、発展的な話合いの始まりでもあります。一方的に主張をぶつけ、受け手が「ナマ返事」では、かえって解決に余計な時間をかけることになりません。

さらに付け加えると、素直な「返事」は、自分に非がないことの証明でもあります。後ろめたいことの最中にいくら声をかけても返事はしませんよ。歩。いつでもだれにでも…。

次に「あいさつ」です。

全国焼酎メーカーの首位を走る「霧島酒造」の採用担当者

は「求めているのは、大卒者、高卒者も区別なく、あいさつと健康と、素直さを備えた人材です。これがあれば後は社

で育てます。」ときっぱりと言いました。オリピック銅メダリスト

で、国際審判員として活躍。国内では若手育成の重役を担う柔道家の大迫明伸氏（小林市出身）は、「全中（中学校の全国大会）で優勝した選手でも

最後に「整理整頓」です。

昨年度、学校内の落し物のうち、持ち主が不明のままの物が数多くありました。小物から上着まで…。ものを大切に

書いて「自分の物」にすることを。それは持ち主となった責任の証でもあります。さらに、新しいものを手に入れたら、同時に必ずその「入れ物」と「置き場所」を準備しましょう。「整理整頓」は手に入れたときから始まっています。

この「しまい方」ができれば、その物を有効に使うことができ、また、その都度物を探す時間と手間の無駄を防ぐこととなります。そうすることでゆとりが生まれ、豊かな生活につながるでしょう。

以上の3つは、「みんな」の目標です。「みんな」とは、我々（教師）と保護者の皆さんの目標でもあります。目標達成に向けて、一緒に頑張りましょう。

生活安全・交通安全

家庭訪問期間にGWと、子どもだけで過ごす時間が多い時期です。

危険な場所、危険な遊び…危ないことから離れる判断力が必要です。耳に残るまで、繰り返し言い聞かせましょう。合わせて交通安全。自転車に乗る子どもにはヘルメットの準備をお願いします。



「みんなで考え

みんなで作る みんなの小林小学校」

(学校長メッセージ)

「みんなで考え みんなで作る みんなの小林小学校」は、本年度の学校づくりのテーマです。

「学校の姿は子どもの姿」。しかし、子どもだけで、学校をつくることはできません。子どもの姿を形づくることを、先生方だけに期待するものではありません。子どもと、子どもをとりまく大人たちがすべて学校づくりの当事者意識、仲間意識をもつことが重要です。そのためのキーワードが「みんな」です。

「みんな」とは主役の「子ども」、指導する「先生」、サポートする「保護者」、そして支える「地域」です。それぞれが小林小学校を自分の学校として思い、お互いにできないところは助け合い、足りないところは補い合い、うまくいかないところはみんなで受け止めながら、「よりよい自分たちの学校にしていく」営みが「みんなで作る学校」の姿です。

学校でも積極的に「学級や学年、学校をもっとよくするには…。」という視点に立って、みなさんの意見を伺う（話し合う）機会を設けていきたいと考えています。言いにくかったことや、遠慮されていたことも、自分たちの学校のために出しましょう。人間のすることですから時には問題も発生します。そんなとき、「人」を非難することでは「問題」は解決しません。みんなが当事者であり、仲間ですから、「問題」はみんなが同じように、みんなの「課題」として受け止める姿勢を持ちましょう。課題解決のために「人」ではなく「こと」として原因を探り、「みんな」でより良い方向を見付けましょう。そのような姿を「みんなで考え」という言葉に込めています。

昨年度、学校創立150周年を終え、また、3月には関係者のご苦勞のおかげで「小林小校区まちづくり協議会」も発足しました。新たな小林小学校の伝統づくりをみんなの力で再スタートする良い節目であると考えます。

「みんなで考え みんなで作る みんなの小林小学校」の実現に御理解と御協力をお願いいたします。



令和5年4月1日

校長 吉井 秀一